

北海道浮魚ニュース

平成25（2013）年度11号

2013年8月1日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/indexhtm>

◎平成25年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

7月31日に予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

水産庁 URL：[//www.jfa.maff.go.jp/j/press/](http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/)

【漁況予報】

予報期間：2013年8月～12月

対象海域：北西太平洋（道東沖から三陸沖）

対象漁業：サンマ棒受網

魚 体：1歳魚の体長は6～7月の漁期前調査時におおむね27cm以上、8月以降の漁期中は28cm以上で、いわゆる大型魚（29cm以上）に相当する。0歳魚はそれより小さく、漁期中のものは中型魚（24cm以上29cm未満）、小型魚（20cm以上24cm未満）およびジャミ（20cm未満）と区分されている。

① 来遊量

来遊量は前年を上回る。

② 魚体

漁期始めは中・小型魚の割合が高いが、9月には大型魚の割合が増加する。

漁期を通しては、前年より大型魚の割合が高くなる。

③ 漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は択捉島南から南東沖に形成される。8月下旬の道東沖での漁獲量は少ないが、表面水温の低下とともに9月になると増加する。三陸海域への南下時期は平年並みで、10月上旬に漁場が形成される。

《解説》

① 来遊量

東北区水産研究所が毎年行っている漁期前調査結果から、例年6月～7月には日本沿岸にはサンマの分布は少なく、概ね東経150°～160°以東の沖合に多いことが明らかとなっている。漁期中のサンマ棒受網船のCPUE（1網当たりの漁獲量：トン）は9月～10月にピークとなることから、6月～7月の調査時に沖合に分布していたサンマが、漁期になると道東～三陸沖へ来遊し、盛漁期を迎えるものと考えられている。来遊量と魚群が漁場に来遊する時期は、漁期前に漁場外を含めた海域で行われた各調査結果で得られた海域ごとの分布量をもとに予測している。

東北区水産研究所の中層トロールによる漁獲調査から、推定資源量は208万トン（以下2013年の推定資源量と推定資源尾数はいずれも暫定値）と前年の160万トンを上回った。推定資源尾数では198億尾で前年（201億尾）と同程度であった。海域ごとに資源量を見ると、1区は31万トン、2区は177万トンとなり、ともに前年を上回った。2009年以前と比べれば1区の資源量が少ない傾向は継続しているものの、2011年以降徐々に西側へのサンマの分布は広がってきている。釧路水産試験場の北辰丸による流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は6.1尾であり、前年（6.6尾）を下回り低い水準であった。また、開発調査センターが行った公海サンマ漁場開発調査結果では、漁獲海域が東経155°～173°で、7月25日現在の操業船1隻1日当たりの漁獲量は18.5トンと前年の17.2トンをやや上回った。今年の東北区水産研究所の調査結果では、西経173°以西海域での推定資源重量が前年を上回ったことから、今年の来遊量は前年を上回ると判断される。ただし、1区の資源量は少なく、釧路水産試験場の漁獲試験結果は低い水準であるため、漁期当初の漁況は低調に推移し、漁場は東方沖合に形成される。その後2区（東経162°～西経177°）の魚群が日本近海域に来遊するのに伴い漁況は上向く。1区の資源量はやや増加し、サンマの分

布は前年より西に広がってきていること、前年は9月上旬には漁況が上向いたことから、遅くとも9月上旬には漁場への来遊量が増加すると考えられる。

② 魚体

例年6月～7月に東北区水産研究所が実施している漁期前調査において、西経177°以西海域全体での1歳魚の割合が高い年は、8月以降のサンマ棒受網漁獲物の大型魚の割合も高くなる。

東北区水産研究所の漁期前調査によって西経177°までの海域で採集された1歳魚（27cm以上）の尾数の割合は82%で、前年（39%）を上回った。漁期前調査で採集されたサンマの体長組成を経度10°毎に集計すると、東経150°～160°では1歳魚が46.7%であったが、東経160°～西経170°の各海域では71.5～99.8%の間であり、東経160°以東の各海域では1歳魚（27cm以上）の割合が高かった。釧路水産試験場による流し網調査では、調査海域全体で27cm以上の個体の割合は非常に低かった。漁獲が見られたのは東経160°以西であり、中・小型魚の割合が98.6%であった。開発調査センターが行った棒受網試験操業結果では、調査海域全体（東経155°～東経173°）では大型魚が主体に漁獲されているが、東経160°以西での漁獲物には中・小型魚も混じっていた。調査による海域別の魚体組成をまとめると、東経160°以西ではサンマの分布量が少なく、中型魚以下の割合が高い。一方、東経160°以東の海域では、魚群の分布量が多く大型魚の割合が高かった。漁期には調査時に西側に分布した魚群から順次日本近海の漁場に来遊するものと考えられる。従って、漁期当初の日本近海漁場には中・小型魚の割合が高いが、東経160°以東に分布していた魚群の加入に伴い大型魚の割合が増加する。資源量は東経160°以東海域の方が多いため、漁期全体での大型魚の割合は前年（48%）を上回ると判断される。

③ 漁期・漁場

近年（過去5年間）

における100トン以上のサンマ棒受網船解禁直後である8月下旬の漁場での平均表面水温は15℃前後であった。7月下旬現在、道東沖では15℃以下の表面水温帯がわずかに分布しているが、例年8月下旬にかけてさらにひろがる。今年

の道東海域の表面水温は7月下旬現在では前年と比べて高めで推移しており、気象庁の海面水温・海流1か月予報（2013年7月21日～8月20日まで）によると、8月20日頃の道東海域における表面水温は平年より高めになり、表面水温15℃の等温線は択捉島南部から東方沖になると予想されている。また、漁期前調査時の東経162°以西におけるサンマの分布密度は低いことから、日本近海への魚群の来遊は遅くなる。100トン以上のサンマ棒受網船解禁（8月20日）後の漁場は、択捉島南東沖に形成される。

【海況予報】

《今後の見通し（2013年8月～9月）》（注）FRA-ROMSシステムによる結果

- ①近海の黒潮の北限位置は平年並み～かなり北偏（北緯35°40'～36°50'）で推移する。
- ②近海の黒潮系暖水の北限位置は平年並み～やや南偏（北緯38°～39°10'）で推移する。
- ③根室岬南東沖及び金華山沖の暖水塊は停滞し、三陸沖の暖水塊は北上する。
- ④親潮第1分枝の南限は平年並み～かなり南偏（北緯37°40'～40°40'）で推移し、三陸近海に冷水域が形成される。
- ⑤親潮第2分枝の南限は平年並み～やや南偏（北緯39°30'～40°30'）で推移する。
- ⑥津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～極めて弱勢（東経143°10'以西）で推移する。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北区水産研究所（東北海区海況予報）

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

（釧路水産試験場調査研究部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）

